

※の金額は研究科委員会決定後、事務局で記入

(書式 2)

学会参加報告書

提出日 2017 年 6 月 27 日

学籍番号	16m0019	学系	スポーツ教育・健康教育学系
氏名	たなか ゆうだい 田中 雄大		
学会等名 (正式名称)	The 2017 International Conference for the 6 th East Asian Alliance of Sport Pedagogy		
開催日程	2017 年 6 月 24 日 ~ 2017 年 6 月 24 日		
開催場所 (国・都市名)	Korea, Incheon		
発表演題名	A Study of Teacher' s "Instructional Cues" in PE Classes of Elementary School		
参加報告 ・項目別に具体的に記載する。	<p><学会の全体の印象> 本学会では、日本、韓国、台湾の 3 カ国でスポーツ教育学について知見を深める学会であった。3 カ国とも同じ割合の参加率だったように思える。流れとしては、オープニングでのイリノイ大学教授による口頭発表、昼食後のポスタープレゼンテーション、3 カ国それぞれ 1 名ずつのシンポジウム、2 つの部屋に分かれて口頭発表という流れだった。皆、コミュニケーションを取り合い発言しやすい雰囲気の中で学会が進んでいたという印象が残っている。</p> <p><自分の研究と関連した発表とその内容> 私は、教師言語について研究しているが、ちょうど同じようなことで口頭発表している方がいた。Soul National University の Gyeongun Son という方だった。研究の内容は、小学校低学年における、擬音語と擬態語の活用について述べられていた。単元はダンスの授業で行われており、擬音語と擬態語を使う前の動きと後の動きを対比させ、その変容を結果として示していた。また、The Relationship of BESS という分析方法を使用し、ダンスの評価を行っていた。BESS とは、Body, Space, Shape の 3 観点から Effort を導き出すものであった。この分析方法は技能成果を見る上で効果的だと感じた。口頭発表後は、個人的に質問させていただき、教師が擬音語と擬態語を上手に使用するにはどのようなことが必要かを問うた。するとなるべく簡単な言葉で短く話すことが大切だと回答してくれた。私が研究している "Instructional Cue" も同じ要素が含まれているので今後コンタクトを取り合せて、自分の研究に生かしたら良いと考えている。</p> <p><自身の発表への質問・コメント> 私の発表はポスタープレゼンテーションで行なった。特に台湾と韓国の方が来てくれたので英語でコミュニケーションをとる機会</p>		

	<p>が多くありがたかった。質問・回答は以下の通りである。</p> <p>「Instructional Cue とは何か」→『子どもがトライする直前に教師が与える技能に関する言葉である』</p> <p>「簡潔に言うとその研究はどんな成果があったのか？」→『子どもたちは、具体的 Cue、運動投企の Cue、一般的 Cue の 3 つを役に立ったと感じていた』</p> <p>「なぜ、単元後半に Cue が減少しているのか？」→『後半は子どもたちの技能が向上し教師が言葉をかける必要がなくなって来たこと、最終回は発表会を行なったので教師が言葉をかける場面が少なくなったことが考えられる』</p> <p>「table3 と fig1 の違いは何か？」→『table3 は単元を通して全ての Cue で fig1 は役に立った Cue の割合を示している』</p>
--	---

- ※ 補助金を受けた学生はこの学会参加報告書を提出すること。
 提出期限は学会終了後 2 週間以内とする。
 本報告書は学会参加報告書として日本体育大学総合スポーツ科学研究センターホームページ内に掲載されます。